

第1章 学校（園）教育充実のための基本事項及び本年度の重点

「第2期富山県教育大綱」

基本理念

ふるさと富山に誇りと愛着を持ち、地域社会や全国、世界で活躍し、未来を切り拓く人材の育成

—真の人間力を育む教育の推進—

基本方針

- ・学校、家庭、地域で取り組む子どもの成長支援
- ・子どもの可能性を引き出し、才能や個性を伸ばす教育の推進
- ・子どもの健やかな成長を支え元気を創造する教育の推進
- ・社会の変化と多様なニーズに対応した高校や大学等の教育環境の充実
- ・生涯を通じた学びの推進
- ・ふるさとを学び楽しむ環境づくり
- ・次世代を担う子どもの文化活動の推進
- ・スポーツに親しむ環境づくりの推進
- ・教育を通じた「ふるさと富山」の創生

重要テーマ

- | | |
|------------------|---------------|
| プロジェクト学習（PBL）の推進 | ICTを活用した教育の推進 |
| キャリア教育の推進 | 働き方改革の推進 |
| 不登校児童生徒の教育機会の確保 | 少人数教育の推進 |
| 幼児教育、特別支援教育の充実 | 高等学校の特色化・魅力化 |
| 外国人児童生徒教育の推進 | データサイエンス教育の推進 |

学習指導要領改訂のポイント

- 社会と連携する「社会に開かれた教育課程」を重視する。
- 子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を確実に育成する。
- 知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育成する。
- 豊かな心や健やかな体を育成する。

「令和の日本型教育」の構築を目指して（答申）

- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
- 誰一人取り残すことなく全ての子供たちの可能性を引き出す

一人一人を見つめ、育てる

【基本事項】

豊かな人間性と好ましい人間関係を育成し、一人一人の人格の完成を目指す学校教育の指導にとって欠くことのできない事柄であり、常に基底に据えて諸活動を展開するように努める。

- 1 創意工夫を生かした教育課程の編成と実施
- 2 知識及び技能の確実な習得とともに、思考力、判断力、表現力等の育成、学びに向かう力、人間性等の涵養を図る学習指導の充実
- 3 学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）の育成
- 4 生命と人権を大切にする教育の徹底と豊かな心を育てる道徳教育の充実
- 5 自己指導能力を身に付けた児童生徒を育てる生徒指導の充実
- 6 体力の向上及び健康・安全に関する指導の充実
- 7 特別な配慮を必要とする幼児児童生徒への指導や支援の充実
- 8 家庭や地域社会と連携・協働する学校（園）づくりの推進
- 9 幼稚園・保育所・認定こども園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校等との連携や交流の推進
- 10 教員としての資質能力を高めるための研修の充実

【本年度の重点】

【重点1】

確かな学力の育成

—「とやま型学力向上プログラム(Ⅲ期)」の推進—

【重点2】

豊かな心の育成

—「いのちの教育」を核として—

【重点3】

健やかな体の育成

—「元気っ子育成計画」に基づく体力の向上と健康の保持増進—

とやま型学力向上プログラム（Ⅲ期）R5～

確かな学力

問題発見・解決能力の育成

【授業改善の視点】 ー単元または一単位時間において

視点1 子供の問題（課題）意識を高める

＜教師の手立て（例）＞

- ・導入での事象の提示や学習環境の工夫
- ・既習事項との違いを確認する場の工夫 等



- ・なぜだろう。
- ・今までと違うぞ。どうしてだろう。
- ・できる、分かるようになりたい。もっと知りたい。

視点2 子供が自己調整しながら学習を進めることができるようにする

※自己調整：課題解決の過程で、自分の学習状況を把握し他の子供と話し合うなどして、方向性を見直したり、必要な内容等について考えたりすること 等

＜教師の手立て（例）＞

- ・活動の見通しをもたせる工夫
- ・情報を収集・選択し、考えをもたせる工夫
- ・一人一人の問題解決に生きる対話の工夫
- ・考えを分かりやすくまとめ、表現させる工夫
- ・自己の活動を振り返らせたり、身に付いたことを自覚させたりする場の工夫 等



- ・〇〇してみよう。次は△△していけばよさそうぞ。
- ・ここは、まだよく分からないから調べよう。
- ・みんなは、どう考えたかな。聞いてみたいな。
- ・みんなに言いたいことが伝わるかな。
- ・ここまで分かったぞ。次は、□□してみよう。

- ・学びに向かう力の高まり
- ・自己肯定感の向上

家庭学習へのつながり

- ・もっと考えたい。
- ・あきらめないでよかった。また、がんばろう。

- ・もう1回やってみよう。
- ・難しいかもしれないけれど、挑戦しよう。

各学校による主体的な学力向上の取組の推進（Ⅱ期） PDCAサイクル H25～R4

I 期を根底に置く

学力の向上と人間関係づくりを一体的に進める「学び合い」（Ⅰ期）H20～H24
実感を伴った理解につながる「体験」の重視

＜授業改善の視点＞

○ねらいを明確にした授業の構想 ○目的を明確にした書く活動 ○終末における学習成果の確認

確かな学力につながる「問題発見・解決能力」を育成するⅢ期の取組 ～ 二つの視点からの授業改善 ～

「問題発見・解決能力」は、目の前の事象から解決すべき課題を見だし、主体的に考え、多様な立場から協働的に議論し、解決を導き出すために不可欠な能力である。学習指導要領においては、学習の基盤となる資質・能力の一つに挙げられている。

「問題発見・解決能力」の育成に向けて授業改善に取り組むことは、主体的・対話的で深い学びを実現し、学力の向上につながると考える。学習者中心の授業となるよう、二つの視点を基に、手立てを工夫することが望まれる。



〈真剣な眼差しで実験に取り組む子供たち〉

＜教師の手立て（例）＞

視点1 子供の問題（課題）意識を高める

＜導入での事象の提示の工夫＞

【小学6年：社会科】

「新しい日本、平和な日本へ」

戦後、日本が短期間で復興したことに興味をもつことができるよう、富山大空襲の被害の様子と、昭和33年の富山国体の画像を比較する。



富山市が、戦災による焼け野原から見事に復興したことを知り、日本全体の戦後の復興に関心をもってほしい。

日本中が焼け野原となったのに、戦後13年で富山国体、戦後19年で東京オリンピックを開催することができた。どのように復興したのだろう。



＜既習事項との違いを確認する場の工夫＞

【中学2年：数学科】

「連立方程式」

連立方程式を利用して解くことよさに気付くことができるよう、一次方程式を用いた解き方と比較する。



一次方程式で解くことができる問題でも、2種類の文字を使うと数量の関係を違う形で表現することができることに気付かせたい。

二つの求めたいものを2種類の文字で表すことが、今までと違う。どのようなよさがあるのだろう。



視点2 子供が自己調整しながら学習を進めることができるようにする

＜一人一人の問題解決に生きる対話の工夫＞

【小学5年：理科】

「もののとけ方」

実験から得た結果についての気付きを基に、対話を通して分析、解釈し、試行錯誤しながら考えを深めていく場を設定する。



食塩は、水の温度を高くしても、予想したようには溶けなかった。

どうしたら、たくさん溶かせるのかな。



ミョウバンは、水の量を増やしてもよく溶けたよ。

食塩も水の量を増やすと多く溶けるかな。やってみよう。



＜考えを分かりやすくまとめ、表現させる工夫＞

【中学3年：外国語科】

「I Have a Dream」

自分の好きなことや取り組んできたことをよりよく伝えるために、相手を変えながら繰り返しやり取りする場を設定する。



友達の意見を参考にして自分がつくった文を見直し、納得できるよりよい表現にしてほしい。

「好きになったきっかけを入れると分かりやすくなる」と教えてもらったので、追加しよう。友達のアドバイスを受けてよりよい表現につくり変えたい。



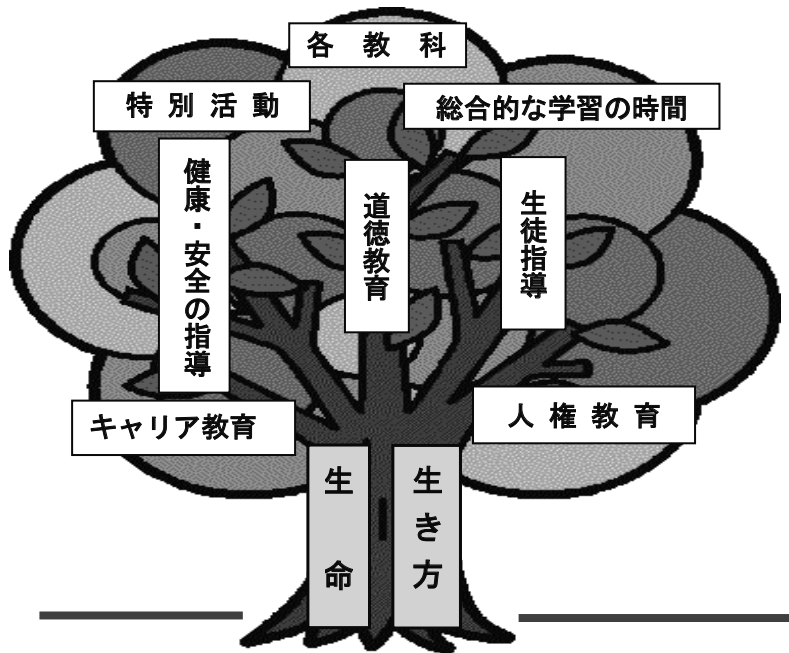
※県内の取組例を学力向上推進チームかわら版「あしすと」73・83・91・92号等で紹介しています。
(富山県教員応援サイト)

【重点2】 豊かな心の育成

－「いのちの教育」を核として－

一人一人の自尊感情を高め、よりよく生きようとする態度を培うなど、「いのちの教育」を核とした教育活動を通して豊かな心を育むことが大切である。

「いのちの教育」は教育活動全体を通して



富山県教育委員会では、「いのち」という言葉に、かけがえのない「生命」と人間としてよりよく生きようとする「生き方」という二つの意味を込めている。

「いのちの教育」は、学校における教育活動全体をいのちの視点から捉え直したものであり、日々の教育活動の中で、子供たちが、人や自然、社会と関わる体験を通して、自他のいのちがかけがえのないものであることを実感するための教育である。

《 「いのちの教育」推進のための視点 》

子供たちが自分の中のよさや可能性に気づき、他とのつながりを実感する。

自尊感情を高めることで生きている喜びを感じることができるようになる。他との関わりを通して、他と共に生きている存在であるという思いをもつようになる。

教師自身が自分のいのちと向き合い、自分の生き方を自分自身に問いかける。

教師自身のいのちに真摯に向き合う姿勢が、子供たちのいのちへの感性や想像力を育む大切な環境となる。

学校と家庭、地域が確かな信頼関係を築き、連携しつつ共に学ぶ意欲をもって取り組む。

学校で実践されている「いのちの教育」の考え方を家庭や地域と共有することにより、子供たちの学習や体験が豊かなものとなる。

指導のポイント

・認め励まし合う機会の充実

自分自身をかけがえのない大切な存在だと思える自尊感情を育む。

・喜びや悲しみ等の感情を仲間と共有する機会の設定

かけがえのないいのちの尊厳を実感できる豊かな感性や想像力を育む。

・いのちを守るための知恵の習得と態度の育成

いのちを脅かす行為や情報に対して、未然に防いだり、被害を最小限に食い止めたりする知恵を習得させる。

【重点3】 健やかな体の育成

－「元気っ子育成計画」に基づく体力の向上と健康の保持増進－

目指す「とやま元気っ子」	
幼稚園	… 運動遊びが大好きな幼児
小学校	… 運動が大好きな児童
中学校	… 進んでスポーツに取り組む生徒



「元気とやまマスコット きときと君」

©富山県

各学校（園）が、体力の向上と健康の保持増進を目指して作成する「元気っ子育成計画」の中に、「運動機会の確保」「望ましい生活習慣の形成」の視点を取り入れ、各学校（園）、家庭が共通理解し、地域と連携して重点的に取り組むようにする。

健やかな体の育成

運動機会の確保

体力の向上につながる運動機会を確保する。

- ・運動の楽しさや喜びを味わえる体育の授業（遊び）の充実
- ・運動（遊び）に親しみ、意欲を高める体育的行事の充実
- ・家庭や地域と連携した環境づくり

幼児児童生徒を取り巻く環境の変化により、体を動かす機会が減少し、平成30年以降、体力が低い水準で推移している。

体力の向上には、幼児児童生徒が、運動する楽しさを味わえるような運動機会を確保していくことが必要である。

望ましい生活習慣の形成

健康の保持増進につながる望ましい生活習慣を形成する。

<健康三原則の徹底>

- ・調和のとれた「食事」
- ・適切な「運動」
- ・適切な「休養・睡眠」

毎日を健康に過ごすには、調和のとれた「食事」、適切な「運動」、適切な「休養・睡眠」が必要である。

健康に対する正しい知識を身に付けさせるとともに、それらを活用する学習活動を取り入れるなど、指導方法を工夫し、望ましい生活習慣の形成に結び付くようにすることが大切である。

「元気っ子育成計画」による取組例

実態の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度の数値指標の達成度の把握 ・全国及び富山県の体力・運動能力、運動習慣等調査結果の把握 ・とやまゲンキッズ作戦調査結果の把握
計画の作成	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校（園）の実態に応じた目指す元気っ子の設定 ・具体的な取組の検討 ・数値指標の設定（「運動への興味・関心」「運動習慣の定着度」等の観点で設定） ・教育計画等への位置付け
実践	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体を動かすことの楽しさを実感する取組 <ul style="list-style-type: none"> ・Webアプリとやま元気っ子チャレンジ ・きときとチャレンジランキング 等 ○ 体力向上に向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> ・目標設定→実行→体力テストで評価→改善（PDCAサイクルの確立） ・苦手種目克服のための1校1運動 ・運動の成果が実感できる評価カード ・体育の授業の改善による運動好きな子供の育成 等 ○ 家庭や地域との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・学校だより等による情報提供と共通理解 ・地域人材の活用 等 ○ 実践的な態度を育てる保健指導 <ul style="list-style-type: none"> ・目のリラックス体操 ・すいみんチェックカード ・メディア・コントロールの実施 等 ○ 望ましい食習慣を身に付ける食育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・「毎日しっかり朝ごはん」運動 ・食育推進月間での取組 等
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・達成度、取組状況の調査とまとめ ・次年度の「元気っ子育成計画」作成のための見直し

「元気っ子育成計画」

運動好きでたくましい心と体をもった幼児児童生徒を育成するために、各学校（園）が家庭や地域と連携して取り組む運動や健康に関する内容をまとめた計画

（「とやま元気っ子育成ハンドブック」 富山県教育委員会 平成18年度）